

2013 年度 NPO 法人 民間稲作研究所各種研修・講習会のお知らせ

「有機農業の推進に関する法律」が制定されて5年目、モデルタウンづくりが事業仕分けに遭い、有機農業が産地競争力事業に組み込まれてしまいましたが、当研究所は2009年6月からモデルタウンづくりの事務局業務と20haの付属農場をベースにした大規模有機農業の技術開発と支援事業を行ってきました。

特に今年度は東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウンという深刻な事故によって大量の放射性物質が放出され多くの農地が汚染され、その除染が大きな課題となりました。当会を事業本部として「大豆・ひまわり・菜の花プロジェクト」がスタートし、植物除染の技術開発を行いながら自給率の低い植物油を生産する栽培技術、搾油技術、搾油粕からのセシウムの回収技術、消化液の肥料としての活用技術などの研究を行ってきました。

当研究所では本部での技術開発だけでなく、会員農家のみなさんとともに、技術支援の講習会を各地で開催しております。今年度も有機圃場に囲まれた研修施設を中心に別紙の内容で研修会や講習会を実施致します。つきましては、興味ある方々をお誘い併せの上、是非ご参加下さい。

また、かみのかわ有機農業推進協議会と協力し、消費者を対象とした有機農産物による「味噌づくりの会」や有機認定圃場での「ポイント研修＝有機稲作チャレンジプロジェクト」などの各種講習会も実施致します。ご希望の方は事務局までご相談下さい。



ポイント研修参加者 ベランダ育苗試験

問い合わせ先

NPO法人民間稲作研究所及びかみのかわ有機農業推進協議会事務局

有機農業技術支援センター 担当 稲葉

かみのかわ有機農業推進協議会 担当 笠井

栃木県河内郡上三川町鞘堂72、Tel/fax 0285-53-1133

2013年度 有機農業技術支援センター研修内容

今年度から新たに「有機稲作チャレンジプロジェクト」が始まります。当会のスタッフがサポートしますので初心者でも問題なく無農薬・有機でコシヒカリを育てられます。ぜひ御参加下さい。

種別	研修内容	募集人員	研修費	申込人数
長期宿泊研修	有機農業者の子弟や新規就農者を対象に実習を中心とした1年～2年間の宿泊研修です。平成24年度から新規就農者研修支援制度が発足しました。ご相談ください。	2名	600,000円 生活費を含む	
「いのち育む有機稲作」ポイント研修	一般市民・農業者・普及員・研究員・インストラクターなどを対象とした「いのち育む有機稲作」の栽培ポイントに関する研修です。	30名	年間5回 (10日間) 50,000円(弁当込み)	
「有機稲作チャレンジプロジェクト」	付属有機圃場1区画100㎡を使って育苗から収穫まで全行程を体験して頂き、収穫されたコシヒカリは持ち帰っていただく方式です。	25名	1区画100㎡ 30,000円	
半日視察・研修	国内外の農業者・行政担当者・市民・学生・生協関係者などを対象とした有機農業に関するガイダンス講座です。	40名	半日 30,000円	
作 目 別 研 修	有機麦栽培講座	40名	1,000円/講座	
	有機大豆栽培講座			
	油脂作物栽培講座			
5 農業簿記講習会	就農希望者を対象に、有機農業に関連した農業簿記の講習会です	30名	5,000円	
6 短期専門研修	研究者・普及員を対象とした専門研修	20名	30,000円	
7 みんなの有機農業公開講座	かみのかわ有機農業推進協議会主催の10回連続の有機農業講座です。	30名	1,000円/1回	

注 i : 半日視察・研修は随時受け付けております。毎月第3火曜日としておりますが、止むを得ない場合はご相談に応じますのでご連絡下さい。

申込書 下記にご記入のうえ **0285-53-1133** までファックスしてください。

氏名		連絡先	
住所			

NPO 法人 民間稲作研究所主催の地域研修会

3月11日の東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所の大事故によって広範な地域に放射性物質が降り積もり、外部被爆と内部被爆の恐怖に晒されるという未曾有の事態となってきました。こうした国民的困難の最中に野田政権は早くも「TPP参加」を表明し「日本農業の崩壊」も意に介さずといった態度に、多くの農家は怒りを感じながら営農意欲を無くし離農してしまいました。今や農業者の平均年齢も65.8歳という現状です。10年後、気が付いたら誰も農業をする人が居なくなった。わずかに販路を持った有機農業者が頑張っているという深刻な事態が見えてきます。

慣行栽培が技術的にも経営的にも行き詰まっているなかで、有機栽培への転換を検討する農家の方が増えてきました。昨年からはじめた「環境保全型農業直接支払」をはじめ、当研究所関係者の努力で「ラムサール条約締約国会議」や「生物多様性条約国会議」で水田決議が採択され、国連「生物多様性10年」の取組が実施されることとなり、有機農業への支援策も少しは進展するものと思われましたが、東電の福島原発による放射能汚染は有機農業に大きな打撃となってしまいました。いち早く立ち上げた一般社団法人グリーンオイルプロジェクトによって放射能の除染・回収技術と植物油の生産販売が軌道に乗り、希望が見えてきましたが、本格実施はこれからです。

2013年度の技術講習会、総会公開講座、認証センターの認定講習会はこうした最新情報を踏まえた内容で開催します。特に油脂作物による放射能除染と植物油の搾油精製方法、今年の米づくりと有機稲作の成果、環境保全型農業直接支払、有機農業推進法をめぐる見直しの現状、今年度栃木県小山市で開催される生物多様性農業アジア会議などが開催されます。

なかでも、福島・栃木での技術講習会では油脂植物による除染事業、植物油の搾油と販売を重点に、生物多性を育む有機農業、生物の多様性を活かした抑草技術、根ぐされの解消法など新たな知見を基にした講習内容と致します。

また生物多様性年の取組みの一環として「生物の多様性を育む有機稲作ポイント研修」を全国3会場で開催する予定です。つきましては、興味ある方々をお誘いあわせ、ご参加下さい。

なお、有機農業技術支援センターではイネ、麦、大豆、なたね、ひまわりの有機栽培をメインに、各種研修会を開催します。希望する研修会に○印を付けてお申し込み下さい。準備の都合で日程が変わる場合があります。希望する方々にのみ改めてご案内を差し上げますので、ご承知置きください。

記

- 1 日時及び各種講習内容 別紙参照
- 2 主催団体 NPO法人 民間稲作研究所
- 3 問合せ申込み先 NPO法人 民間稲作研究所 Tel/Fax 0285-53-1133
- 4 申込み締め切り 開催日2週間前

2013年 各種講習会仮申込書

ご氏名		電話・ファックス	
ご住所			

1 有機稲作技術講座（参加費 研究所会員 3000円 非会員 6000円）

県名	日時	場 所	定員	講 習 内 容	申込人数
広島	1/19	広島北ホテル (宝物産・みのる産業主催)	80	13:00~15:00 ポット成苗による有機稲作	
栃木	1/20	有機農業技術支援センター (上三川町下神主233)	40	14:00~17:00 放射能除染技術と有機農業	
高知	1/25	高知共済会館コミュニティスクエア (みのる産業主催)	80	13:00~15:00 ポット成苗による有機稲作	
滋賀	1/26	ひこね市文化プラザメッセホール (みのる産業主催)	80	13:30~16:30 ポット成苗による有機稲作	
埼玉	2/4 (月)	クレアこうのす大会議室A・B (鴻巣市主催)	80	14:00~16:00 環境にやさしい有機農業	
岩手	2/8 (金)	一関市大東コミュニティセンター	60	午前9:00~午後12:00 有機農業講習会	
宮城	未定	JAみどりの田尻支店	60名	13:30~16:00 有機稲作栽培講習会	
長野	3/16	長野県池田町福祉会館 池田町大字池田2418	50名	13:30~16:00 有機稲作栽培講習会	
栃木	3/17 (日)	アジア学院 那須塩原市槻沢 442-1/0287-36-3111	40名	10:00~14:00 油脂作物による 放射能除染と栽培講習会	
福島	3/23 (土)	福島県二本松市 会場 未定	60名	1:30~5:00 油脂作物による 放射能除染と栽培講習会。	
福島	3/24	福島県南相馬市原町区 会場 未定	30名	1:30~5:00 油脂作物による 放射能除染と栽培講習会。	

なお、有機認定講習会が開催される会場もございます。詳しくは一般社団法人 民間稲作研究所 認証センター（0285-53-1198）までお問い合わせください。

2 夏季現地研修会

地 域	時期	場所及び内容	定員	申込人数
アジア環境創造型稲作技術会議 プレ集会	2月9日	栃木県小山市	80名	
アジア環境創造型稲作技術会議	8/9~8/11	日本・栃木県小山市	200名	
現 地 研 修 会	東北（福島県）	8月下旬	二本松市（予定）	80名
	関東甲信越（長野県）	7月上旬	池田町	80名
	関西（高知）	6月下旬	高知市	40名

この仮申込をもとに詳細な計画を立て、改めてご案内致しますので、必ずご希望の項目に記入し、1月31日までに0285-53-1133までファックスしてください。

2013年度 有機農業長期研修内容

(就農希望者が対象です。 定員2名)

1. 研修内容

月	研修時間	内 容
4月	120h	イネの育苗技術、水田の水管理技術
5月	100h	ひまわりの播種作業技術、水田雑草の防除技術
6月	120h	麦の収穫・調整技術、油脂作物（ナタネ）の収穫・調整技術
7月	120h	油脂作物（ナタネ）の収穫・調整技術、ひまわりの播種技術、イネの生育診断と肥培管理、大豆の播種、中耕除草技術
8月	100h	大豆の中耕除草技術、ナタネの搾油技術、イネの有機種子採種圃の管理技術。生物の多様性によるイネの病害虫防除技術。
9月	100h	ひまわりの収穫調整技術、イネの収穫・調整技術、麦茶の製造技術
10月	120h	イネ・大豆の収穫調整技術・麦芽の製造技術
11月	120h	麦・ナタネの播種作業技術、ひまわりの搾油技術
12月	100h	大豆の搾油技術、有機農産物の販売技術
1月	100h	農業簿記の学習、味噌加工技術の習得
2月	100h	小型建設機械講習、麦、なたねの中耕技術 有機農産物の生産行程管理者・小分け業者認定講習会
3月	120h	農業機械（大型特殊・牽引）免許取得 水田の基盤整備、イネの種子処理技術
合計	1,320h	

2. 習得する技術

- ・イネ・麦・大豆の有機栽培に関する技術
- ・油脂作物（ナタネ・ヒマワリ）の有機栽培に関する技術
- ・麦茶・麦芽・搾油等の有機農産物の加工に関する技術
- ・農業機械・小型建設機械研修
- ・農業簿記、有機農産物のJAS認定制度等に関する知識・技能の習得

3 実習を中心とした研修内容

月	週	講義・実習内容
4	1	オリエンテーション 抑草技術(その1)－本田の砕土・均平・けい畔管理
	2	プール育苗の実際 （その1）－温湯処理・催芽－床土の準備－床土の作成・土詰作業 プール育苗の実際 （その2）－催芽・置床の準備 抑草技術 （その2）－シードバンク調査・1回目代かきの意義と実際
	3	プール育苗の実際 （その3）－播種作業 抑草技術 （その2）本田の水管理の実際、コメヌカ屑大豆混合ペレットの製造
	4	プール育苗の実際 （その4） 置き床への移動・灌水・保湿・保温作業
	5	プール育苗の実際 （その4） 育苗初期の管理・出芽と防鳥管理
	1	連休・交代水管理実習
	2	抑草技術と生き物調査（その3）抑草技術と水田の生き物調査
	3	2回目代かきの意義と実習、トロトロ層・緑藻類発生調査・けい畔草刈

5	4	抑草技術（その4）シードバンク削減と2回目代かき実習 移植の意義と実際 けい畔の整備と水管理・田植準備・田植実習
	5	移植と雑草防除の歴史、補植作業、移植大豆混合ペレットの散布実習
6	1	イネの活着診断と水管理 抑草管理の実際 消費者交流 農業体験学習
	2	大麦の収穫作業・出荷調整作業実習、 有機大麦の種子調整保管管理実習
	3	消費者交流 水田の生き物・生育調査 小麦の収穫調整作業 大麦跡稲作の移植実習
	4	小麦の収穫・出荷調整作業 有機小麦の種子管理実習 小麦跡の稲作の移植実習 小麦・大麦の成分分析の実際 大豆の品種特性とは種の準備作業(耕起実習)
	5	イネの生育診断と肥培管理の実際
7	1	大豆は種実習・栽培特性判定実習
	2	有機稲作の技術的課題（国内研修）
	3	大豆の除草と第1回培土作業のポイント
	4	幼穂形成の継続的調査 生殖成長と肥培管理 循環型肥培管理と養鶏の役割:飼育実習 発酵肥料製造実習
	5	大豆の根粒菌調査と追肥の意義及び実習・草刈
8	1	大豆第2回培土作業と追肥の意義及び実習・草刈
	2	大豆手取り除草とイネー麦ー大豆2年3作の意義 お盆休暇
	3	大豆の遺伝子検査・ほ場審査の実際 秋野菜の栽培実習
	4	水稻種子採種圃場の異株・病害株除去の実習
	5	大豆種子採種圃場の異株・病害株除去
9	1	水稻種子採種圃場の異株・病害株除去と審査
	2	土づくりと発酵肥料製造実習
	3	イネの収量調査及び収穫・調整準備
	4	種子の収穫・乾燥・選別実習
	5	種子の収穫・乾燥・選別実習
10	1	種子の生産物検査と発芽試験
	2	食味検査・成分検査実習 稲作経営の実態と有機稲作のコスト論
	3	けい畔草刈
	4	収量調査のまとめと土づくり実習 発酵肥料の散布実習と本田耕起実習
	5	大豆病害株・異株除去・雑草手取り
11		大豆収穫・乾燥・調整作業実習
12		有機農産物の加工・販売実習
1		有機農業の歴史と現状・課題研究の提案 課題研究のまとめと発表準備 課題研究発表会
2		有機農産物の現状と表示・認証制度 有機種子供給体制の現状と種苗交換会による種子の採種
3		土づくりと抑草技術 水田の基盤整備・ビオトープ管理

実習主体の研修になります。研修費・宿泊費は研修外作業と相殺されます。

いのち育む有機稲作 ポイント研修

水田生物の多様性を活かした有機農業は1, 2時間の講習会を聞いただけで成功できるものではありません。その技術的なポイントや作業の手順など実際に現場を見てはじめて身につきます。

有機稲作に初めてチャレンジする方、抑草がうまく行かず悩んでいる方、アイガモや紙マルチで有機稲作を実施してきたが、規模の拡大等で省力な抑草技術を習得したいと考えている方、麦・大豆を栽培し自給率を改善したいと考えている方、食味や品質を向上させたいと考えている方は是非ご検討下さい。

なお、今年は東電の福島原発事故で放射能汚染が福島・茨城・栃木・宮城・群馬を巻き込み、風評被害で農作物が販売できないという苦境に立たされています。「グリーンオイルプロジェクト」を立ち上げ、除染しながら自給率の低い植物油を生産する取り組みをおこなってきました。栃木会場では、その経過や実際の栽培ポイントについても講習致します。

1 研修場所

- 関東会場 栃木会場・実習圃 NPO 法人 民間稲作研究所有機農業技術支援センター
〒329-0526 栃木県河内郡上三川町下神主 233-1 TEL0285-53-1133
長野会場・実習圃 矢口農場
埼玉会場・実習圃 網本農園
- 関西会場 高知県・滋賀県 (会場未定)

2 研修経費

- 栃木会場 50,000 円 (昼食費を含みます。1泊2日 年間5回、延べ60時間)
その他の会場 20,000 円 (1日 6時間 年間4回 延べ24時間)

3 申込み締め切り 3月1日 各会場とも定員 30名

4 申込先 NPO 法人 民間稲作研究所 Fax 0285-53-1133 [メール inaba@inasaku.or.jp](mailto:inaba@inasaku.or.jp)

【栃木会場 講座内容】

	開催日	時間	講座内容
第 1 回	3月22日(木)	10:00 13:00 14:00 15:00 17:00	<p>—近代農業の功罪と有機農業— 有機農業推進法・ラムサール条約・生物多様性水田決議・10年決議・環境保全型農業直接支払 福島原発放射能汚染を乗り越えるための「菜の花・大豆・ひまわりプロジェクト」の進め方と「DVDいのち育む有機稲作—これからのイネづくり」</p> <p>—育苗— ・有機種子の供給体制と種子の処理 ・種子の選別—種子の品質と塩水選 ・温湯処理 —原理と実際 プール育苗の実際 (その1) ・置床の準備 (その1) 床土の準備</p> <p>—有機水田の放射能測定・除染と基盤整備・生き物調査— ・用排水・魚道の除染と整備・ビオトープ兼浄化池の整備・畦畔の整備・アカガエルの保全対策</p>

	3月23日(金)	9:00 13:00 14:00 15:00	－水田生物の多様性を活かした抑草技術－ ・水田雑草の種類と発芽生長特性 埋土雑草種子の調査 ・早期湛水と2回代かきによる抑草技術 ・菜の花－イネ、菜の花－大豆・ひまわりの抑草技術 ・ドクターソイルによる土壌診断と発酵肥料の作り方
第2回	4月18日(木)	10:00 13:00	プール育苗の実際(その2) ・苗質と播種量・床土・温度管理 ・播種作業の実際 ・置床の準備(その2) ・出芽の準備(育苗圃場の環境と温度管理)
	19日(金)	9:00 12:00 15:00	抑草技術(その1) ・水田生物の多様性を活かした抑草技術のポイント ・土壌別・雑草別の耕起作業と砕土・均平作業 ・1回目代かきのねらいと方法 ・1回目代かき後の水管理の目的と方法
第3回	5月17日(木)	10:00 17:00	水田の生き物調査(その2) ・トロトロ層の形成と抑草効果 ・緑藻類の発生と抑草効果 ・営農のためのいきもの調査のねらいと方法 抑草技術(その2) ・2回目代かきの目的と実際
	5月31日(木)	9:00 15:00	・抑草ペレットの役割とその作り方・散布法 なたね・麦跡の育苗技術
第4回	6月14日(木)	10:00 17:00	抑草と初期生育診断・生き物調査・病害虫防除技術 ・抑草効果の診断と対策 ・生育診断(根と土壌の診断)と追肥用発酵肥料の作成 有機水田の生き物調査と生物多様性病害虫防除技術
	6月29日(金)	10:00 17:00	なたねの収穫・調整・搾油の実際 なたね跡のイネ、大豆、ひまわり栽培の実際
第5回	10月18日(木)	10:00 17:00	収量調査と有機水田の放射能調査と土づくり ・収量調査・食味・成分・品位検査の実際 ・放射能測定・土壌診断の実際と土作り ・土壌改良資材(モミガラ燻炭の作成法)
	10月19日(金)	9:00 15:00	発酵肥料の考え方・つくり方・パン焼き実習・地ビールの作り方と試飲・昼食・修了式

【その他会場 講座内容】

	開催日	時間	講座内容
第1回	3月下旬	9:00	－近代農業の功罪と有機農業－ 有機農業推進法・農地・水・環境向上対策・ラムサール条約・生物多様性条約水田決議、環境保全型農業支援 DVDいのち育む有機稲作－これからのイネづくり
		9:30	－育苗－ ・種子の選別－種子の品質と塩水選
		10:30	・温湯処理－原理と実際(麦、粟などへの応用)
		11:00	プール育苗の実際(その1) ・置床の準備(その1) 床土の準備 昼食
		13:00	－有機水田の基盤整備と生き物調査－
		14:00	・用排水・魚道整備・ビオトープ兼浄化池の整備・畦畔の整備
		16:00	－水田生物の多様性を活かした抑草技術－ ・水田雑草の種類と発芽生長特性 ・冬期湛水、早期湛水と2回代かきによる抑草技術
		17:00	・イネ－麦－大豆の2年3作による抑草技術

第 2 回	4月 中旬	15:00	プール育苗の実際（その2） ・ 苗質と播種量・床土・温度管理 ・ 播種作業の実際 ・ 置床の準備（その2）
		19:00	・ 出芽の準備（育苗圃場の環境と温度管理）
		9:00	抑草技術（その1） ・ 水田生物の多様性を活かした抑草技術のポイント ・ 土壌別・雑草別の耕起作業と碎土・均平作業 15:00 ・ 1回目代かきのねらいと方法
第 3 回	5月 中旬	15:00	水田の生き物調査（その2） ・ 雑草の発芽とトロトロ層の形成・抑草効果
		19:00	・ 緑藻類の発生と抑草効果
		9:00	抑草技術（その2） ・ 2回目代かきの目的と実際 15:00 ・ 抑草ペレットの役割とその作り方・散布法
第 4 回	6月 中下旬	15:00	現地研修会 抑草と初期生育診断
		19:00	・ 抑草効果の診断と対策 ・ 生育診断（根と土壌の診断）と追肥発酵肥料の作成
		9:00	有機水田の生き物調査と生物多様性病害虫防除技術 ・ 有機水田と慣行水田のクモ・カエル・トンボ調査 ・ 生物多様性病害虫防除技術の可能性 15:00 ・ DVD ミツバチからのメッセージ

有機稲作チャレンジプロジェクトのご案内

NPO法人民間稲作研究所：全国有機農業推進協議会

1 目的

日本の農業は今崩壊の危機に直面しています。後継者が不足し、農薬や化学肥料の大量使用で経営者はもちろん田んぼの生き物も健康な生涯を全うできなくなっています。このまま農業の崩壊を放置すれば、日本人は全うな食事もできない国民になってしまいます。10数年後には確実に訪れるこの危機的状況を乗り切るために、私たちが築き上げてきた「生物の多様性を活かした有機稲作」を消費者とともに共有し、しっかりとした地産地消の持続的な仕組みを構築し、TPPの潮流に巻き込まれない社会システムを作り上げたいと思います。

具体的には一人100㎡の有機水田に必要な種を蒔き、苗を育て、その苗をベテランの有機農家の水田に移植し、多様な水田生物を育みながら、その生き物の力を借りてイネを育て、ミネラルの豊かな玄米40kg以上を収穫し、頂くという取り組みです。生き物調査や生育調査を農家のみなさんと一緒に行い、健康なイネが多くの生き物たちによって支えられ、私たち人間もこの命の連鎖の一員として活かされていることを実感しあいたいと思います。このプロジェクトは単に消費者の健康な食の確保と有機農家の経営を安定させるというだけではなく、自然に恵まれた日本の風土のなかで、いのちを大切にす農業をベースに新しい社会を作りあげる国民運動です。最初はささやかかも知れませんが、やがて大きな大河になることを願って、大胆に消費者に呼びかけ、一緒に有機農業をすすめ農業の再建をめざす一大国民運動を展開したいと思います。

2 プロジェクトのあらまし

- ① ベテランの有機農家の有機水田を消費者に提供し、有機稲作のノウハウをお伝えするとともに、参加消費者に苗づくりから田植・水管理・刈り取り・乾燥・脱穀・もみすりといったお米になるまでの全過程と生き物調査によって水田や周辺の多様な生き物がイネの健康な成長を支えていることを体験していただき、共に育み、頂き、伝え合い生産と消費の有機的結合による地産地消を実現します。
消費者は受入れ農家への指導・管理経費として100㎡あたり30,000円をNPO法人全国有機農業推進協議会に納付します。
- ② 受入れ農家は種籾、床土、育苗資材、有機質肥料、掛け干し資材などの資材費、トラクター、田植機、コンバイン、もみすり機などの使用料、指導及び本田管理費、研修費を含め、100㎡あたり20,000円の経費を受け取り、指導管理にあたるとともに、下記4回のポイント研修（参加費総額40000）に参加する。
- ③ 窓口業務、啓発宣伝は全国有機農業推進協議会事務局が行い、受入れ農家に指導管理費を支払い、技術指導機関であるNPO法人民間稲作研究所に指導料を支払い運動を維持発展させる。
- ④ 受入れ農家は全有協会員又は寄付金納入会員などでポット苗による稲作を実施している農家又はその技術を導入する予定の農家。
- ⑤ 育苗資材の提供と技術指導はNPO法人民間稲作研究所が行うものとします。

3 25年度 実施日程

実施月日	対象者	実施内容	担当者	研修費等	備考
2012, 10 ～	全有協会員参加団体農家	生産者会員の募集	全有協事務局 民間稲作研究所		定員10名
2012, 12 ～2013, 3	チャレンジャー	チャレンジャーの募集	全有協事務局	30,000	定員25名
2013, 3, 上旬	受入れ予定農家	①ポイント研修。制度内容、栽培技術の全体指導	民間稲作研究所	10,000	技術支援センター
3月下旬	同上	②ポイント研修。育苗技術、抑草の基本技術	民間稲作研究所 稲葉農場	10,000	同上
4月下旬	チャレンジャー	苗づくり教室	稲葉農場		種籾・資材
6月上旬	チャレンジャー及び受入れ予定農家	田植作業	稲葉農場		有機圃場
6月下旬	受入れ予定農家	③ポイント研修 生き物調査・生育調査と栽培管理	民間稲作研究所 稲葉農場	10,000	技術支援センター
7月上旬	チャレンジャー	生き物調査・生育調査と栽培管理・生物多様性防除	民間稲作研究所		技術支援センター
10月中旬	チャレンジャー	稲刈り・乾燥作業	稲葉農場		
10月下旬	チャレンジャー	もみすり、精米作業	稲葉農場		
11月中旬	受入れ予定農家	④ポイント研修 土壌診断と発酵肥料づくり	稲葉農場	10,000	技術支援センター

問い合わせ連絡先 NPO法人 民間稲作研究所 担当 稲葉
メールアドレス inaba@inasaku.or.tv TEL/Fax 0285-53-1133

半日研修の視察・研修受け入れ（定員 40 名）

全国各地の生産団体や生協会員・JA職員など10～40名の見学・研修です。
毎週火曜日が実施日となりますので、詳しい日程は事務局にご相談下さい。

時 間	研 修 内 容
2：00～3：00	有機水稻採種ほ場、大豆・麦栽培ほ場の視察・耕種概要説明
3：00～5：00	研修室における講義 ① 近代農業の功罪と有機農業の役割 ② いのち育む有機稲作の基本技術 ③ イネー麦ー大豆2年3作の栽培概要とその基本技術 ④ 有機農業による農業経営の再建と環境創造



半日研修に訪れたキューバと韓国のみなさん

4 作物別有機栽培講座（定員 20名）

栃木県内の優れた有機農家を招き、実際の指導を行って頂きます。

特に、麦・大豆の栽培は播種や収穫調整機械の情報を含め、具体的な内容の実習です。

作物	時 期	研 修 内 容
麦・菜種	10月中旬	① 麦・菜種の自給率と用途 ② 麦・菜種栽培の現状と問題点 ③ 小麦・大麦・なたね栽培の実際
大豆・ひまわり	6月中旬	① 大豆・ひまわりの自給率と用途 ② 生産調整における大豆・ひまわり栽培の意義 ③ 大豆・ひまわりー麦・菜種ーイネー麦・なたねー大豆・ひまわりの輪作体系 ④大豆・ひまわり栽培の実際

5 短期専門研究会（対象：生産者・普及員・農協指導員・大学院生・研究者）

有機農業の研究や普及に携わっている方々を中心に日本農業の歴史的・地理的条件を分析しながら、明日の農業に関するビジョンを論議し、研究の課題や運動のあり方など各界で活躍する方々を講師にお招きし研修する予定です。定員20名